

# 私立大学研究ブランディング事業

## 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	461003	学校法人名	志學館学園		
大学名	鹿兒島女子短期大学				
事業名	鹿兒島の食文化の継承と発展～「鹿女短 食育ステーション」構築事業～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	940名
参画組織	南九州地域科学研究所、地域連携センター、博物館、図書館、児童教育学科、生活科学科、教養学科				
事業概要	鹿兒島県は温帯から亜熱帯まで南北600kmにも及び、各地に多様な食材や食習慣、郷土料理等の食文化が形成されている。本事業では、本学を鹿兒島の食文化・食育に関わる人・もの・情報が行き交う「食育ステーション」として、食育に関わる情報・技術の発信拠点とする。研究成果は、「鹿兒島の食アンバサダー」の輩出による食文化の継承と、健康的な食生活の情報提供や食育教材の開発・普及等により、鹿兒島の食文化の発展に寄与する。				
①事業目的	鹿兒島の食文化の調査・研究とそれに基づく、鹿兒島の食文化についての知識や技能を身につけた学生を「鹿兒島の食アンバサダー」として全学的に養成し、地域に輩出する。この「鹿兒島の食アンバサダー」を主体として、県内各地で食育活動を行うことにより、鹿兒島の食を通して「人」、「もの」、「情報」が、本学を「ステーション」として行き交うようになる。これにより、本学を「鹿女短 食育ステーション」として、鹿兒島県内の食育・食文化の情報と技術の発信拠点とし、鹿兒島の食文化を次世代に継承していくためのシステムを構築する。				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p>《実施目標》 本事業における「鹿女短 食育ステーション」構築に向けての、全ての取り組みが、本格的に開始／実施されることになる。そこで、令和元年度の目標を、「各取り組みの実施と検証」とする。達成度の測定は、各取り組みの計画に沿った実施の状況と、実施後のそれぞれの指標に基づく評価により行う。</p> <p>《実施計画》</p> <p>①食育・食文化の研究ブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや印刷物による郷土料理のレシピ提供</li> <li>・学科・専攻を超えた食育研究促進のための方策の検討</li> <li>・食育教材の試作品を用いた実証的な研究と試作品の改良</li> <li>・博物館における成果発表のための展示</li> </ul> <p>②鹿兒島の食アンバサダー養成による食育ステーションとしてのブランディング化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿女短スマイル食育講座の開講</li> <li>・アンバサダー取得者の活動のホームページ上での公開に向けた検討</li> <li>・アンバサダー認定対象者の見直しとそのために必要な具体策の検討</li> <li>・鹿女短ファーム スマイルランチの実施</li> <li>・鹿女短スマイルクッキングの実施</li> <li>・かごしま食育フェスタへの参加</li> </ul> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かごしま郷土料理ジュニアマイスター講座の開講</li> <li>・鹿女短スマイル食育プロジェクトの遂行</li> </ul>				

<p>③令和元年度の事業成果</p>	<p>＜事業成果＞</p> <p>①食育・食文化の研究ブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育ステーションのホームページのレシピサイトにおいて、30品の郷土料理のレシピを公開した。</li> <li>・食育教材「鹿女短の食育絵本 西郷さんと大豆の豆助」の試作品を用いた実証的な研究を試し、改良を図った。</li> <li>・博物館における成果発表のための展示を行った。</li> </ul> <p>②「鹿児島の食アンバサダー」養成による食育ステーションとしてのブランディング化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間7回の鹿女短スマイル食育講座を開講した。</li> <li>・アンバサダー取得者の活動を、食育ステーションのホームページ上で公開した。</li> <li>・アンバサダー認定対象者の見直しを行い、養成を開始した結果、卒業生1名の鹿児島の食アンバサダーが誕生した。</li> <li>・鹿女短ファーム スマイルランチ及び鹿女短スマイルクッキングを実施した。</li> <li>・12月1日(日)に開催された第5回かごしま食育フェスタにおいて、「大豆の豆助と学ぶ『味噌でスマイル』」～豆助味噌玉で簡単みそスープを作ろう～として参加した。</li> </ul> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かごしま郷土料理ジュニアマイスター講座を開講し、新たに31名のジュニアマイスターが誕生した。</li> <li>・4つの鹿女短スマイル食育プロジェクトを遂行し、のべ228回の活動を行い、3,521名(学生・教職員・外部)の参加を得た。</li> </ul>
<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>本学教員による日頃の研究・教育成果発表の場の一つとして、「鹿児島の食と文学と観光 鹿児島ゆかりの作家「向田邦子」の暮らし・食・鹿児島～「故郷もどき」を訪ねて～(3回講座)」、「スマイル食育講座」を外部講師も招いて地域住民向けに開講した。これらの一部は、マスコミ取材を受け、ニュースや番組の一部にて紹介された。本事業の主体となる「鹿児島の食のアンバサダー」養成に関しては、認定対象者の見直しを行い、卒業生や高校生にも対象を拡大し養成を開始、卒業生の「鹿児島の食アンバサダー」が誕生したが、今後「鹿児島の食アンバサダー」の更なる輩出と認定者のその後の活動を評価していく取組みについて検討する必要がある。</p> <p>また、スマイル食育講座等における研究ブランディング活動の共通基盤となるテキストとして、「鹿児島の食文化読本」を作成、県内図書館等寄贈するなど、鹿児島県内の食育情報の技術の発信拠点となる活動を進め、鹿児島の食文化の継承と発展の一役を担っていると判断している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>令和2年2月21日(金)に開かれた「COC活動外部評価委員会」において、本事業の進捗状況について報告し、その評価を受けました。</p> <p>《評価》</p> <p>「鹿児島の食と文学と観光」は、鹿児島ゆかりの作家「向田邦子」の視点から鹿児島の街・食について、講演会と調理実習で体験するユニークなプログラムであり、このブランディング事業でなければ再現できない活動だと感じました。また、多種多様な「食」に関するプロジェクトをこの1年間で実施されたことは本当に素晴らしく、これほどのまでの水準と密度をもって実施された食育活動は他に類を見ないと思います。「食」という最も身近な体験の中に、地域の文化や人々の想いが凝縮して伝承されていることを学生さんは、頭での理解ばかりでなく、すでに伝承するという行為へつなげている。「自己肯定感」を持って地域を支える力強い若者像を感じると同時に、「食」の教育効果を改めて感じました。今後、本事業の規模縮小は経費の面からもやむを得ないが、大事なことは継続していくことであり、可能な限りの取組みをお願いしたい。</p>
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>＜調査・研究費＞・食品の機能性を活かした加工品の開発、食文化の調査・研究旅費</p> <p>＜広報・普及費＞・教材等の印刷費、送料</p> <p>＜その他＞・ブランディング事業推進のための消耗品等の購入費、人件費(講師謝金等)</p>